

# 多収性ながいも「とがち太郎」を作りこなす

～目的に合わせて栽培法を選ぼう～

## 概要 Abstract

「とがち太郎」は十勝農業試験場と地元生産者団体等が共同で育成したながいも品種です。現在、産地への導入が進んでおり、それに伴い特性を活かした栽培技術が求められています。そこで、各種栽培条件が「とがち太郎」の収量性に及ぼす影響を明らかにしました。

## 成果 Results

### ●株間に対する反応

「とがち太郎」は、密植（株間18cm）、慣行（株間24cm）いずれの条件でも既存のながいもより多収です。また、両品種・系統間の収量差は、条件によらず同程度です。

### ●切いも重に対する反応

「とがち太郎」は、切いも重が70～100gでは既存のながいもより多収です。また、同条件での両品種・系統間の収量差は同程度です。

※切いも：種苗用としてながいもを切断し、植付ける大きさに分割したもの

### ●株間と切いも重の組合せに対する反応

「とがち太郎」は、密植と切いも軽量化を組合せた場合、既存のながいもより多収です。両品種・系統とも慣行と比べ、同等～1割程度の増収となります。

### ●マルチに対する反応

「とがち太郎」は無マルチ栽培すると既存のながいもと同様に一本重が減少します。ただし、減少程度は既存のながいもより軽微です。

### ●「とがち太郎」の特長

「とがち太郎」は、様々な栽培条件で安定して多収であり、また、栽培条件への反応は既存のながいもと同様です。そのため、従来と同様の考え方で株間や切いも重、マルチなどの栽培条件の設定が可能です。

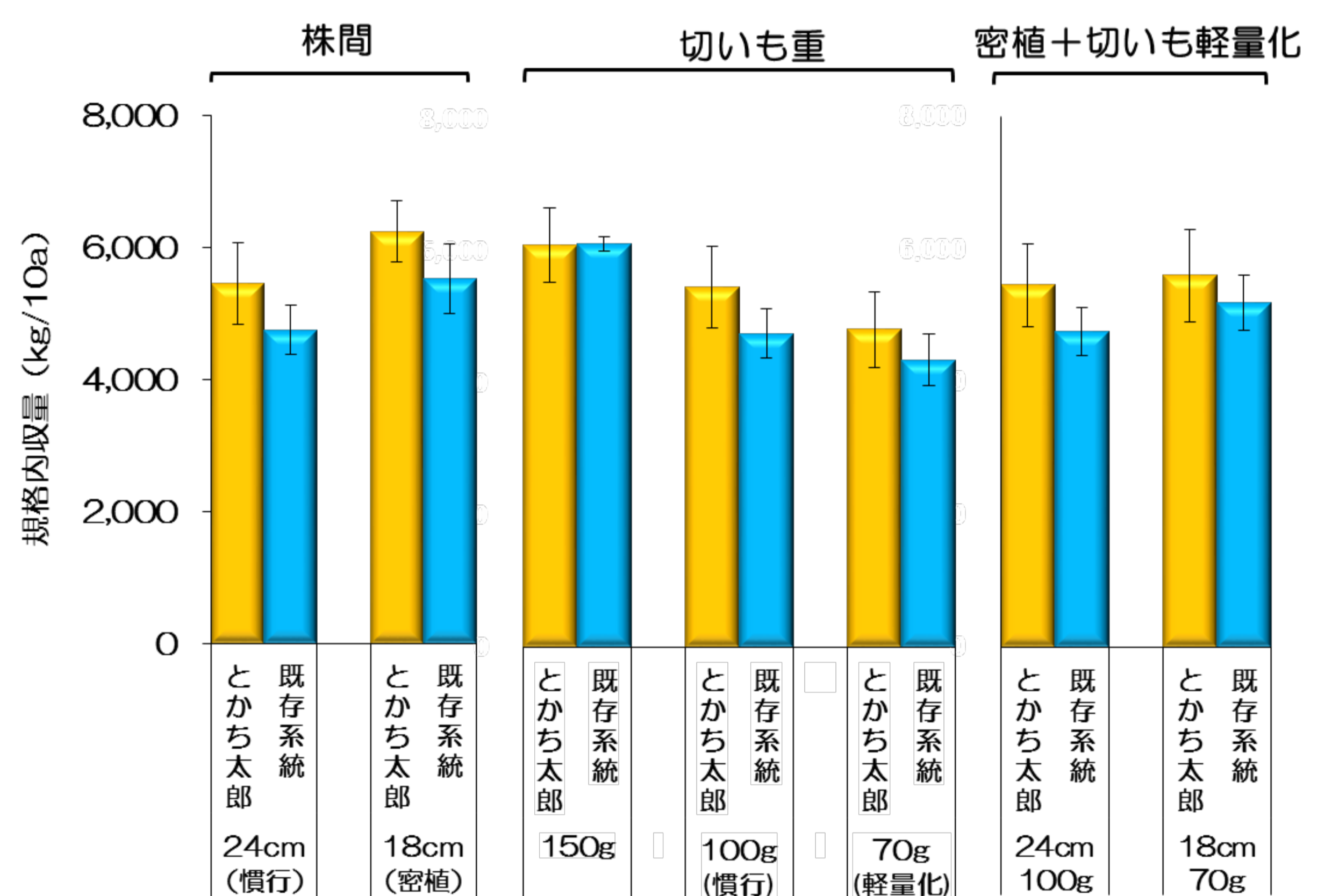


図 株間、切いも重およびこれらの組合せが規格内収量に及ぼす影響

- 1)十勝農試2014～16年、畝幅90cm（寄せ畦）、マルチ有における平均値。
- 2)株間試験の切いも重は100gで実施。
- 3)切いも重試験の株間は24cmで実施。
- 4)図中の縦棒は年次間の標準誤差を示す。

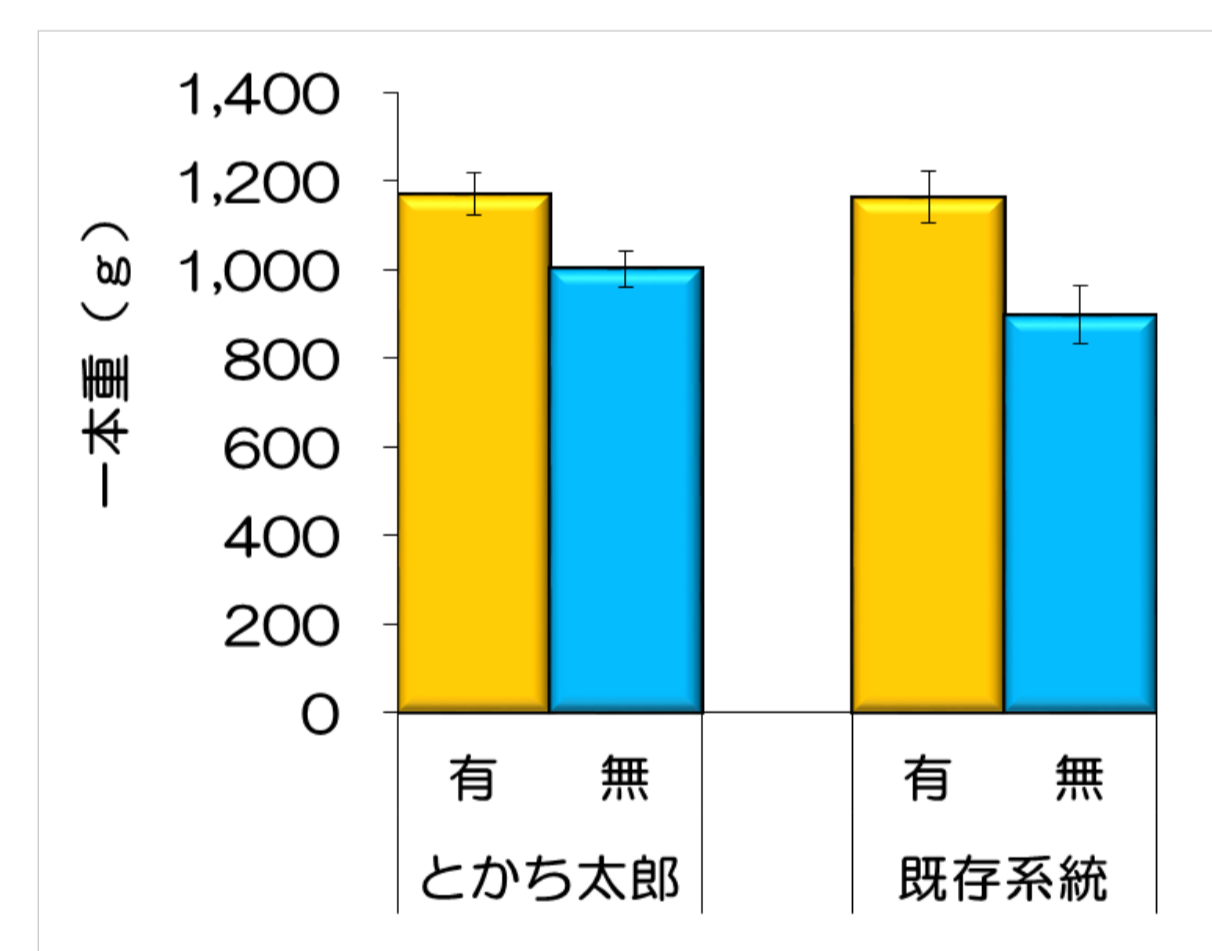


図 マルチが一本重に及ぼす影響

- 1)十勝農試2014～16年、畝幅90cm（寄せ畦）、株間24cm、切いも重100gにおける平均値。
- 2)図中の縦棒は年次間の標準誤差を示す。

表 各栽培法における「とがち太郎」の規格別重量割合と経済性

規格	一本重 (g)	各栽培法における規格別重量割合 (%)			
		慣行栽培	切いも軽量化	密植栽培	切いも軽量化 + 密植栽培
2S、3S	200～399	2	3	3	1
S、M	400～599	2	6	4	8
L	600～799	6	11	13	21
2L	800～999	17	19	26	26
3L	1,000～	72	61	54	43
<b>経済性</b>					
種苗費	(円/10a)	43,428	30,400	57,759	40,388
労働費	(円/10a)	138,868	132,034	146,386	137,273
全算入生産費	(円/10a)	509,613	489,750	531,462	504,978
規格内収量	(kg/10a)	5,456	4,814	6,249	5,604
収量当たり生産費	(円/kg)	93	102	85	90

- 1)慣行栽培：栽植密度4,630株/10a、切いも重100g。
- 2)切いも軽量化：栽植密度4,630株/10a、切いも重70g。
- 3)密植栽培：栽植密度6,173株/10a、切いも重100g。
- 4)切いも軽量化+密植栽培：栽植密度6,173株/10a、切いも重70g。
- 5)規格別重量割合および規格内収量は2014～16年試験で得られた値。
- 6)収量当たり生産費は十勝管内における実態調査(2012年)における生産費を5)の規格内収量で除した値。

## 普及 Dissemination

「とがち太郎」の青果生産に際しての参考として活用してください。

栽培法により多く得られる規格や生産費が異なります。目的に合わせて栽培法を選択しましょう！

## 連絡先 Contact

十勝農業試験場  
研究部 地域技術グループ  
0155-62-2431  
tokachi-agri@hro.or.jp